

令和6年度「全国学力・学習状況調査」結果についてのお知らせ

佐賀市立 川上小学校

4月に文部科学省による全国学力・学習状況調査を実施しました。全国的な義務教育の機会均等と水準向上のため、児童の学力や学習の状況を把握・分析し教育の改善を図るとともに、児童一人一人の学習改善や学習意欲の向上につなげることを目的としているものです。

結果を基に、本校児童の学力の傾向を分析し、学力向上について対応策をまとめました。その概要についてお知らせいたします。

■ 調査期日

令和6年4月18日(木)

■ 調査の対象学年

小学校6年生児童

■ 調査の内容

(1) 教科に関する調査(国語、算数・数学)

- | |
|--|
| ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等に関わる内容。 ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容。 調査問題では、上記①と②を一体的に問うこととする。 |
|--|

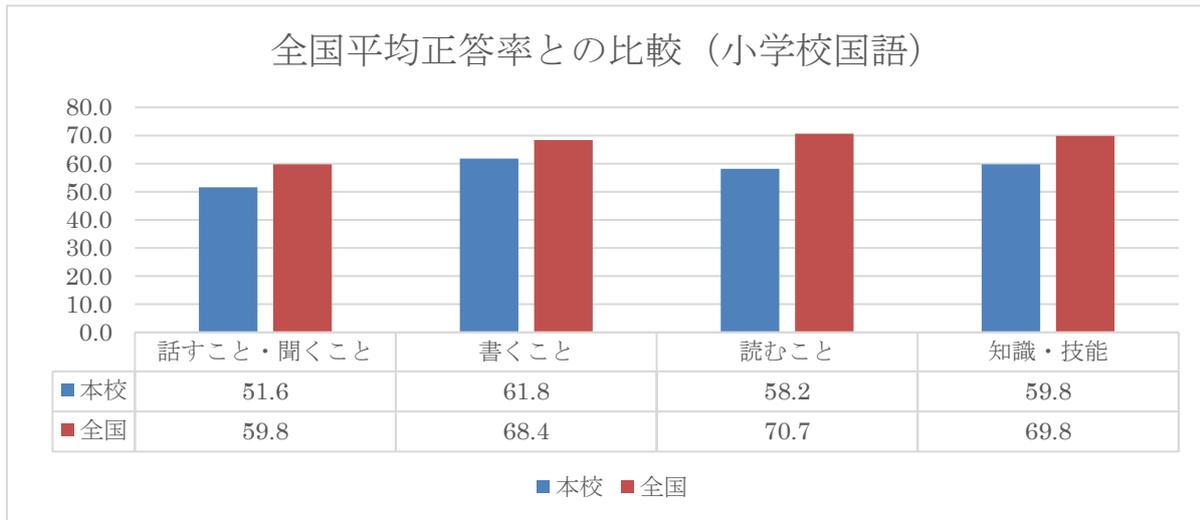
(2) 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

| 児童に対する調査 | 学校に対する調査 |
|--|--|
| 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査 (例) 学習に対する興味・関心、授業内容の理解度、 基本的な生活習慣、家庭学習の状況 など | 指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査 (例) 授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、 学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など |

■ 調査結果及び考察について

全国学力・学習状況調査は小学6年生・中学3年生と限られた学年が対象であり、教科は国語と算数・数学に限られています。さらに、出題は各教科の限られた分野(問題)です。したがって、この調査によって測定できるのは、「学力の特定の一部」であり「学校教育活動の一側面」であることをご了解の上、ご覧ください。

■ 調査結果及び考察



1 国語

(1) 結果

全ての領域で全国平均より低い結果でした。特に、「読むこと」は、全国平均を大きく下回っています。また、無回答率をみると、記述式が全国平均より高くなっていました。

(2) 成果と課題

今回の調査で、「知識・技能」の正答率が全国平均を 10 ポイント下まわりました。国語科の「話すこと・聞くこと」「書くこと」「読むこと」のそれぞれの内容領域の根幹をなす言葉の力であり、普段から漢字や言葉の学習、音読などの成果が表れている領域です。課題は、問題形式の「記述式」の正答率を上げることで、正答率は、全国平均を下回っており、苦手になっている児童が多くなります。そのため、日頃から自分の既存の知識や様々な体験と結び付けて感想をもったり考えをまとめさせたりする活動に取り組みせることが有効だと考えられます。授業改善を通して、日々の授業で力を付けていくことが重要であると捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

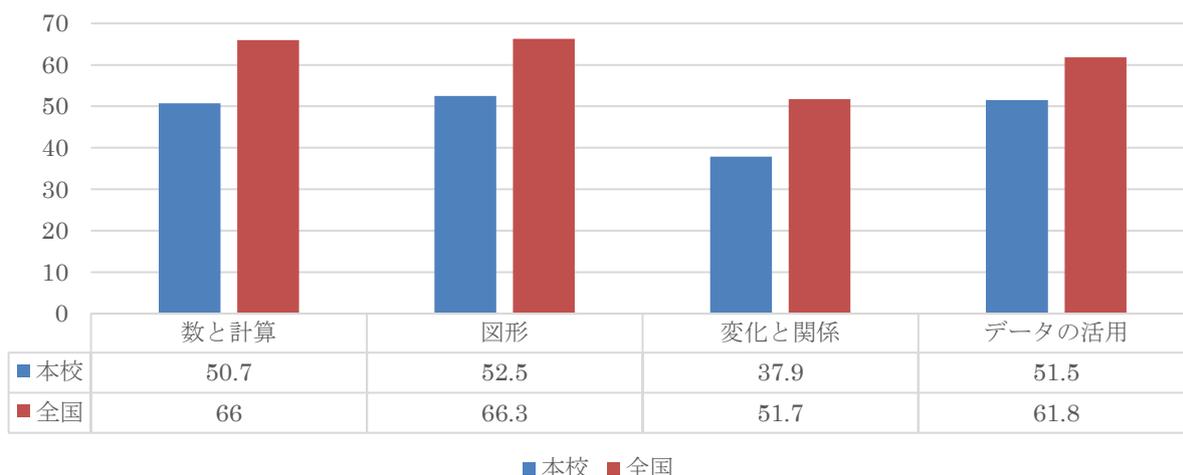
【学校では】

- 子どもが主体的に学べるように、授業のめあてを子どもと共有したり、授業の在り方を工夫したりすること（主体的・対話的で深い学び）で、子ども同士が話し合いながら、深く学んでいけるようにします。
- 目的や意図に応じて、自分の考えとその理由を明確にしながらかく機会を増やします。
- 漢字の読み書き、ことわざ等の学習に一層力を入れるとともに、辞書を活用させ、語彙力を増やします。
- インタビュー、案内や紹介など、日常生活につながる言語活動を授業場面で設定します。習得した国語の力を活用させる場面を増やすことで、表現力を向上させていきます

【ご家庭では】

- 音読を大切にしていましょ。繰り返し音読することで、文の構成、言葉の意味を理解し、文節ごとにきちんと区切ってすらすら読めるようになります。文章を読み、要点や意図を捉えることは、国語科だけでなく全ての教科の学力向上に不可欠です。
- 親子の会話を大切に、メディアから離れて生のコミュニケーションをしましょ。楽しい会話の中で、いろいろな表現や用語にふれて語彙力を高めたり、自分の考えや気持ちを言語化したりできます。単語ではなく、文で会話することを意識するとさらに語彙力が高まります。また、いろいろな生活体験活動をさせていましょ。自分の体験・経験から感想や考えが生まれ、学習に生かすことができます。

全国平均正答率との比較（小学校算数）



2 算数

(1) 結果

全ての領域で全国平均を下回っています。

(2) 成果と課題

今回の調査では、どの項目も全国平均より低い結果となり、各問題における無回答率についても、ほとんどの設問で全国平均よりも低い結果でした。問題や課題に対して、何とか答えようという意欲を感じることはできましたが、誤答の分析を行うと、注意深く考えたり粘り強く考えたりすることができない児童も多く、基礎的・基本的な計算でのつまずきも大きな原因となっていました。

今後、身近な問題を取り上げ、興味のある題材を用いて授業を行うことでやる気を出させて、粘り強く取り組む姿勢を培っていきたいと考えています。また、基礎的・基本的な四則計算等を繰り返し取り組ませ、定着させることが必要だと捉えています。

(3) 学力向上のための取り組み

【学校では】

- 課題解決に至るまでに、意見交流の場を設定し、自分の考えを表現したり、他者の考えにふれたりして、思考の幅を広げさせるようにします。
- 身近な問題を取り上げ、興味のある題材を用いて授業を行うことでやる気を出させて、粘り強く取り組む姿勢を培っていきたいと考えています。また、基礎的・基本的な四則計算等を繰り返し取り組ませ、定着させるように努めます。
- タブレットをつかった学習等で、既習事項の定着、スキルアップの時間を設定します。また、TT少人数指導、ノートチェック、プリント、ドリル、家庭への課題など、日々の指導の中で個々のつまずきを早期に見つけ、補充指導に努めます。

【ご家庭では】

- 算数が好きになるには、「習ったことが生活の中で使えて、便利だな。おもしろいな」という経験をさせることが有効です。生活場面で算数を使ってみてください。「おかし分けで割り算」「料理で重さ」「お風呂で水のかさ」「買い物で暗算」「折り紙で分数」「家の中で図形探し」など、ちょっと意識するだけで、身のまわりには算数を使えるものが意外とあります。
- 1桁の足し算・引き算、かけ算九九はすべての算数の基礎となります。学年に関わらず、日常的に家庭でも暗算練習などをするのも有効です。
- お子さんのドリルやプリント等の宿題の様子やテストをご覧になって、たくさん励ましや称賛の言葉をかけてください。

3 生活習慣や学習環境等に関する質問調査

(1) 結果

※「当てはまる」「どちらかと言えば当てはまる」「どちらかと言えば当てはまらない」「当てはまらない」のうち「当てはまる」と回答した児童の割合。

《生活習慣・自己肯定感・規範意識について》

| 調査項目 | 本校 % | 全国平均 % |
|-------------------------------|-------|--------|
| 朝食を毎日食べていますか。 | 74.1% | 83.4% |
| 毎日同じくらいの時刻に寝ていますか。 | 33.3% | 39.7% |
| 毎日同じくらいの時刻に起きていますか。 | 59.3% | 56.1% |
| 自分にはよいところがあると思いますか。 | 48.1% | 43.4% |
| 将来の夢や目標を持っていますか。 | 57.4% | 60.6% |
| 人の役に立つ人間になりたいと思いますか。 | 70.4% | 71.1% |
| いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか。 | 85.2% | 79.5% |

起床については全国平均を上回っていますが、朝食・就寝について下回っています。「早寝・早起き・朝ごはん」の生活リズムを大切にしていくことはとても重要です。家庭と学校で協力して、習慣化していきましょう。また、「自分にはよいところがある」、「いじめはいけない」と答えた児童は全国平均を上回っています。自己肯定感や規範意識の向上を目指して、これからも指導を続けます。

《家庭学習の様子》

| 調査の項目 | 本校% | 全国平均 % |
|--|-------|--------|
| 学校の授業時間以外に、普段（月曜日から金曜日）、1日当たりどれくらいの時間勉強をしますか。「3時間以上」 | 7.4% | 11.0% |
| 「2時間以上、3時間より少ない」 | 9.3% | 12.5% |
| 「1時間以上、2時間より少ない」 | 27.8% | 31.1% |
| 「30分以上、1時間より少ない」 | 37.0% | 27.0% |
| 「30分より少ない」 | 11.1% | 13.0% |
| 「全くしない」 | 7.4% | 5.3% |

家庭学習については全国平均よりやや下回っており、1時間未満の児童が5割以上、中には全く家庭学習をしていない児童もいました。かなり個人差が見られるため、家庭学習の手引きをもとに家庭学習の意味を保護者や児童に伝えて家庭学習が習慣化するように指導をしていきます。また、自分の目標に向かって、計画を立てて家庭学習を行う習慣についても指導していきます。

(2) 改善に向けての取り組み

【学校では】

- 学校からは、学年に応じた宿題を出しています。自主学習（自学）についても高学年で取り組み、お手本になる自学ノートを紹介することにより、自学の取り組みが定着しつつあります。これから中学年にも少しずつ広げていきます。
- 学校では、読書の推奨をしたり、図書委員を中心に読書イベントをしたり、ボランティアによる朝の読み聞かせをしたりするなど、読書の機会を増やすための工夫をしています。いろんな分野の本を読むように、これからも継続して指導をしていきます。

【ご家庭では】

- 川上小学校では「川上っ子チャレンジ週間」を設定しています。この機会をとらえて、家庭と連携しながら規則正しい生活と家庭学習の定着を図りたいと考えていますので、ご協力よろしくお願いします。
- 「家庭学習の手引き」をご覧になり、学習時間の目安や、自主学習の説明を参考に、自分で決めて学習できるように励ましてください。お子さんが頑張ったとき、少しでも向上したときを逃さず、ほめることでさらに意識が高まります。